

壊される国民主権！ またもつづく、強行採決！

「共謀罪」法は廃止！ 「プライバシー権を制約するおそれがある」

(国連特別報告者ジョセフ・ケナタッチ氏)

国会運営に「異議あり」 内閣支持率「急落！」

6月19日のマスコミは世論調査での安倍内閣の支持率が軒並みに急落したと報道しています。

急落の要因は「共謀罪」採決での強引な国会運営が大きく影響しました。併せて「加計学園」でも説明に「納得していない人」が70%近くにのぼっています。

共謀罪法案では金田法務大臣の答弁が、二転三転、安倍首相が法務大臣の答弁を抑えたり、法務副大臣や法務省刑事局長に答弁させるなど異常さが目立ちました。

国連特別報告者が安倍首相に書簡を送り、回答を求めましたが、質問に答える事なく、「抗議」をする異常であった。

市民と4野党が「本音」で語る

第2回タウンミーティング

(いちご市民の会)

「共謀罪」(テロ等組織犯罪準備罪)の民意無視・デタラメ答弁の国会審議がすむ6/4、衆議院神奈川15区いちご市民の会は、4野党共闘を促進させようと、第2回タウンミーティングを130名の参加で開催しました。

ゲストは「共謀罪」法案の緊迫した国会前行動の合間を、総がかり実行委員会の高田健さんを招き「野党と市民で政権奪取」をテーマに基調講演をしました。

第2部では立憲4野党と市民が本音で語り合う「野党と市民の共闘」についてパネラーの皆さんと4野党が活発な討論、参加者からの質疑で大いに盛り上がりました。
4野党は県連の代表、民進党真山勇一参議院議員、佐々木克己・沼上つねお両予定候補の各氏から連帯の挨拶をいただきました。

安倍首相は質問に答えてこそ、政府は質問に向き合うことが必要です。最初から問答無用の対応では日本の国際信用を落とすだけです。

「共謀罪」の採決では、衆議院と参議院の答弁に大きな違いがありながら、僅か18時間で打ち切り、委員会(公明党委員長)採決を飛ばし「中間報告」という「禁じ手」で本会議で採決させたのです。

「加計学園」は「岩盤規制打破」の言葉で政府が関与して、便宜が図ったのが問われた問題です。政府は「関係ない」文書が出れば「怪文書」、元事務次官が発言すれば個人攻撃にすり替える。文部副大臣は恫喝とも思われる部下への牽制。力で抑えようとする姿勢がみえみえです。おかしいことは指摘する。



「あなたが

ここにいて欲しい」
被爆国、日本政府は「核保有国の参加がみこめない」との理由で反対を表明しました。国連日本席には「あなたがここにいて欲しい」の思いのメッセージが・・・。
日本からは259万筆余の「ヒバクシャ国際署名」と折り鶴が国連の核兵器禁止条約会議長に届けられました。核保有国は不参加。

次回の予定

スタンディング

7月3日(月)

17時～18時

平塚駅ラスカ前

7月19日(水)

17時～18時

平塚駅ラスカ前

秘密保護法廃止をめざす平塚市民の会

6月19日 No.37

平塚市富士見町11-12(長坂)

090-6167-9079(原)

